みどりの絆

緑崇流吟道緑水吟詠会会報

令和四年　四月

2022

NO.58

総本部会報編集局発行

緑崇流事務所
〒630-8135
奈良市大安寺西1-334-3
TEL/FAX.0742-35-6719
E-mail/m-net@mvf.biglobe.ne.jp

所感

宗家　箕輪　緑崇

草花が華やぎ、穏やかな春の季節の到来をつげています。新年度を迎え会員の皆様におかれましては、すでに二年以上が経ちコロナ禍にあっても、ますますご清栄のことをお慶び申し上げます。また、皆さまには一方ならぬ弊会の活動に深いご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、様々な分野に影を落とす新型コロナウイルスの出現により、あらゆる街から人の姿が消えたかと思うと、それを忘れたかのように一気に人が街に溢れたり、生活が激変した時代に居合わせてしまったと感じ、人間の無力さをつくづく思い知らされました。

また、今まで当たり前のことが非常に幸運で儚いものであったことを再認識させてくれるキッカケにもなりました。そんな時に暗いムードを一変させた東京オリンピックの感動もさることながら、各連盟の大会などで会員の皆さまの活躍が緑崇流吟道緑水吟詠会にとって大変誇らしいものとなっております。そんな中で我々が吟じる漢詩には、古典が持つ普遍的な価値を学ぶことによって「ぶれない心」を持てるようになる人が多いようです。文化のチカラはおそるべしです。これからも詩吟の楽しみを極め、学び究める。夢や目標に向かって前進して、その時、その近くに詩吟があれば必ず力になり、一助になってくれると思います。そして、今後とも緑崇流吟道緑水吟詠会は、吟は厳しく会は楽しくをモットーに「限りなき前進」で歩んで参る所存です。

最後にコロナ禍で、皆さまのご心労も多いことかとお察しいたしますが、どうか皆さまとご家族のご健康とますますのご活躍を心より祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

令和四年四月吉日
（自宅書斎にて）

令和4・5年度　新役員

宗家会長	箕輪緑崇
相談役	中山緑山
理事長	渡辺緑翔
副会長	宮原緑晃
副会長	浦田緑鴻
副理事長	若杉緑高
顧問	佐野緑扇
会計長	宮内緑郷
次長	島田緑聲
監事	河田緑烽
監事	松本緑遥
総務部長	黒野緑新
副部長	西岡緑春
部員	神谷緑妙
部員	河江緑耀
部員	山本勝彦
事務局長	井内緑叡
局次長	加藤緑絆
参与	松村緑圭
局員	渡部玲子
会報編集長	米田緑海
副編集長	津村緑秀
編集委員	徳岡緑江
編集委員	田脇枝秀
緑の会幹事長	木下緑鋒
会計	神崎雅翔

令和３年度昇段テスト並びにコンクール大会

高槻現代劇場　令和３年４月11日（日）

新人の部　優　勝

京口支部◇平山維重

この度、新人の部で優勝という栄誉を頂き、大変嬉しく思っております。

松本緑遥先生を始め、京口支部の諸先輩の皆様方の温かい熱心なご指導ご厚情の賜物と、心より感謝申し上げます。小生の詩吟との出合いは、カラオケ喫茶で「歌謡吟やってみない!?」とお誘いを受け、遥ゆき歌謡学院へ入会させていただいたのが、キッカケでした。

松本緑遥先生から、「歌謡吟やるからには、吟もキチッとやらないと」の事で歌謡吟は置いて、詩吟の熱心で丁寧なご指導を、頂くようになりました。

吟を始めて三年目になりますが、その奥深さに戸惑いを覚えているところですが、吟声・音程等のご指導を頂き、益々精進して参りたいと存じます。

今後とも、松本緑遥先生を始め、諸先輩方、会員の皆様のご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

二級の部　優　勝

玉造支部◇田中美矢子

この度、「優勝」という栄誉を頂戴し、とても嬉しく思っております。熱心にご指導くださいました津村緑秀先生、そして励まし見守って下さった玉造支部の皆様に感謝しております。

「詩吟を習いたい」と思ったものの周りには詩吟を習っている人がおらずどうすれば良いものかとネットで検索しました。たどり着いたのが津村緑秀先生のブログでした。ブログには先生のお写真や詩吟のお話、教室の様子などの記事がありました。その親しみやすく暖かさを感じる文面に惹かれ失礼にも突然直接メールを送り、教室を見学させていただきました。実際に教室に伺うと、教室の皆さんが、いきいきと声を出しておられ、その練習風景を拝見し、即入会させて頂きました。それからは色々な大会などで宗家先生をはじめ、諸先生方、先輩方の素晴らしい吟に憧れずにはいられません。先輩方のような吟を、となると長い道のりになりそうですが今後も一歩ずつ努力して参ります。

今後とも、ご指導、よろしくお願い申し上げます。

一級の部　優　勝

服部ひびき支部◇半田登美子

一級の部 優勝有難うございました。この歳になりますと、賞状を頂くということはなかなかなく、感激いたしました。私は、七十歳を前にして、一生楽しめるお稽古に出合いたいと、常々思っておりました。西岡緑春先生とは遠縁と言うこともあり、かねてよりご活躍の様子を伺っておりました。六十七歳の時最後の挑戦と入門させていただきました。

教室では、先生の温かく熱のこもったご指導、又、先輩方のご助言を頂き楽しくお稽古させていただいております。又、会の発表会におきまして、『西岡先生！いい方にご指導いただいておられるのね。』と言われ、自分自身のことのように、鼻高々でございます。その割りに自分の上達はまだまだなのですが…。

今後とも、先生のご指導のもと、皆様と一緒に楽しく勉強させていただきたいと願っております。　感謝

特別表彰　最高齢を迎えて

淡路トマト支部◇垂水緑花

渡辺緑翔先生に、淡路トマト支部を開いて頂き、五十七才から始めた詩吟、明るく、楽しく、美しくをモットーに三十有余年、いつの間にか最高齢を迎えました。平成四年には、アメリカのシアトル大学での合吟、ナイアガラでは滝壺で、ビショヌレになり、一週間の海外旅行を楽しみ、平成六年十一月には、日本武道館で、第二十七回全国吟剣詩舞道大会で優勝、五十名の合吟でした。このような体験が出来、感謝致しております。

最近は規則正しく、夜は十時就寝、朝は六時起床、テレビ体操の後ゆっくり一日が始まります。充実した日々を送る様心掛けています。

高齢化が進み、八十才以上の第四部が淀川・東淀川大会に出来、十月十日には第一回のプラチナ大会がありました。百四十二名出吟しました。

これからも、宗家先生をはじめ、諸先生方のご指導よろしくお願い申し上げます。

令和３年度 昇格者並びに新緑号取得者

八段総師範
木下緑鋒（りょくほう）

七段上席師範
中塚緑庵（りょくあん）

七段
島田緑聲（りょくせい）

七段
中野緑裕（りょくゆう）

六段
片岡緑美（りょくび）

六段
加藤緑絆（りょくはん）

《新緑号》

加賀緑梢（りょくしょう）

田野緑悠（りょくゆう）

名刺交換会

令和三年度　上位昇段・昇格者及び新緑号名刺交換会が令和三年七月二十七日（火）十三福祉会館で午後八時より行われました。

四段新担当師範号

雅号	本名	支部	担当師範
菊田正晃（しょうこう）	正春	曙	宮原緑晃
田脇枝秀（しゅう）	正枝	玉造	津村緑秀
森井謌翔（かしょう）	澄子	淡路トマト	渡辺緑翔

令和3年度昇段テスト 並びにコンクール 大会成績

〈新人の部〉
優勝　平山　維重
準優勝　田中　未來
準々優勝　法貴　博光

〈二級の部〉
優勝　田中美矢子

〈一級の部〉
優勝　半田登美子

〈初段の部〉
優勝　西本　朱里
準優勝　太田　和子
準々優勝　野上　眞人

〈二段の部〉
優勝　細越　保

〈三段の部〉
優勝　田脇　正枝

〈四段の部〉
優勝　神崎　雅翔
準優勝　加賀　梢高
準々優勝　田野　庄晃
四位　吉川　誠晃
五位　柳井　孝翔

〈五段の部〉
優勝　加藤　緑絆
準優勝　石川　緑誓
準々優勝　福本　緑邦
四位　徳岡　緑江
五位　前之園緑寛
六位　辻　緑芳

〈六段の部〉
優勝　西岡　緑優
準優勝　島田　緑皓
準々優勝　島田　緑聲
四位　加賀山緑豊
五位　松永　緑永

〈七段・上師範の部〉
優勝　木下　緑鋒

〈特別表彰〉
最高齢者　垂水　緑花

八段総師範を戴いて

クローバー支部◇木下緑鋒

この度、八段総師範を戴き大変うれしく思っております。まさか私が…。驚きと少しプレッシャーも感じます。

私と詩吟の出合いは同じ市場でお店を営んでいた故辻緑樟先生です。『あやしい撮影会があるので行こう』と誘われついて行くと、そこはクローバー支部、宮原緑晃先生の教室でした。うまくおだてられ、すぐ入会です。

途中から渡辺緑翔先生にご指導を仰ぎ四十年余りになります。渡辺緑翔先生には熱心にご指導、又、応援頂き感謝申し上げます。

現在故辻緑樟先生の百楽支部を引き継がせていただいております。支部の皆様、私はまだ指導者としては未熟ですがよろしくお願いします。

これからも「継続は力なり」という言葉を頭に入れ頑張っていきます。

継続は力なり

まどか支部◇中野緑裕

この度は、七段の段位を頂きましてありがとうございました。

私にとって七段は重たく思いましたが、今日まで三十年続けてこられた自分へのご褒美として頂戴いたしました。箸にも棒にも掛らなかった私ですが、何とか今日まで吟を続けてこられたのも、宗家会長　箕輪緑崇先生をはじめ、渡辺緑翔先生、諸先生方や会員の皆様方のお陰だと思っております。特にこれまでの長い道のりを共に歩んでくださった師匠渡辺緑翔先生には、心から感謝しております。

『希望と努力』、私にとってコンクールで活躍するような大きな希望は叶いませんでしたが、それでもコツコツと粘り強く、渡辺緑翔先生にご迷惑をおかけしながら、『私は負けない!!』の精神で、良い日も悪い日も努力し頑張ってきました。

これからも身体の続く限り、「吟は厳しく会は楽しく」で前進してまいりたいと思います。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

緑号を戴いて

曙支部◇田野緑悠

この度、緑悠の雅号をいただき本当に有難うございます。これも偏に宮原緑晃先生を始め、曙支部、会員の皆様のご指導の賜物と感謝いたします。

雅号をいただき大変嬉しく思いますが緑崇流の任も果たさなければならないということで責任の重大さをも感じています。緑崇流の「中心的存在」「人の範たり得る者」として精一杯努めていく事をここにお誓いいたします。

詩吟歴は六十四才から宮原緑晃先生にお世話になり早いもので十一年目になりました。大会では失敗ばかりで幾度も辞めようかと思う時もありましたが、「失敗は成功のもと」と自分に言い聞かせ、なんとかここまで辿り着く事が出来ました。

吟はなかなか上達しませんが、私の下手な吟でも人の為に何か役立つ事は出来ないかと思い、田舎の舞踊、歌謡曲をやっている友に相談、田舎の介護施設で慰問演芸大会を開催することを決めました。近年はコロナ禍で催していませんが五年間続けています。涙を流して喜んでくれたおばあさんがいました。この光景を見て詩吟をやっていてほんとうに良かったと今は思っています。

健康、施設の皆さんの為、先輩方の立派な吟詠に一歩でも近づけるよう努力して参ります。

今後もご指導お願い致します。

緑号を戴いて

瑞光北支部◇加賀緑梢

この度は、緑号を戴き感謝の気持で一杯です。雅号は緑梢と申します。

私と詩吟の出合いは、主人の方が先で、付き添いで一緒に行ったのですが、主人は一回目のお稽古で「無理やし、お前が行け」と私に振ってきたのです。

若杉緑高先生の奥様（緑笙さん）とは以前から親しくさせて頂いていたので、私もお付き合いのつもりで始めました。やればやる程、奥の深い吟になかなか上達できず、いつになったら若杉緑高先生に喜んでいただけるのかと、落ち込む事が多々ありますが、先生ご夫妻とグラウンドゴルフというスポーツを通じて楽しく遊ぶ事で、詩吟も頑張ろうと気持の切り替えができています。五段を戴いてやっと詩吟の入り口にたどり着いた気がします。

宗家箕輪緑崇先生をはじめ諸先生方、今後ともご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

第46回 府連出場者決定兼一般之部競吟大会

高槻現代劇場　令和４年１月８日（土）

府連出場者決定兼一般之部大会成績

〈一　般〉

優　勝　島田喜久子
準優勝　福本　佶
準々優勝　徳岡知江子
四　位　安田厚子
五　位　松永幸代
上位入賞　垂水時子
上位入賞　田中紀子
上位入賞　奥村雅生
上位入賞　辻　孝彦
上位入賞　加賀はつえ
入　賞　辻　悦子
入　賞　岡本洋子
入　賞　平山維重
入　賞　金田和彦
入　賞　片山美都子
入　賞　渡部玲子

緑号・師範の部競吟大会成績

令和四年二月六日（日）第四十六回緑号・師範の部競吟大会がコロナ禍の為中止となり、二部師範の部府連出場者は前年度の出場者を参考に今年度の出場者が先の通り決定されました。

中山緑山
松村緑圭
西岡緑春
福本緑景
井内緑叡
松野緑煽
米田緑海
松本緑遥
宮内緑郷

速報 第49回全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会

西岡佐智世さん　二回目入選

令和四年三月十三日（日）に東京笹川記念会館で開催された栄えある大会において二回目の入選をされました。誠におめでとうございます。

会員通信

西岡緑春先生　黄綬褒章受章

《寄稿》

総師範　西岡緑春

私にとって何より喜ばしい事は、主人が二十年前に受章。私も受章出来た事です。十八才で叔父の経営する東京布団技術学院に入学、寄宿科を経て研究科に入り技術、技能を習得、地方に教えに行っていました。国家検定が制定されるベースを作ったのも同学院で、私は時間やその他の課題を設定する為のトライアル大会に東京代表として二回出場しました。

西岡に嫁いでからも二人で国家検定の為の講習会に毎回参加、最近では中央技能検定委員として、学科問題作りに参加していました。五十四年間、一生懸命頑張って来た自分への最高のご褒美を頂いたと感謝しています。ありがとうございました。

★黄綬褒章とは…
国家社会にとって有益な行いをした人に授ける記章で、今回受章された黄綬褒章とは業務に精励し、民衆の模範である方、または、模範となるような技術や事跡を有する方に授ける章で１９５５年に制定された。

第四十六回 淀川・東淀川 詩吟連盟 吟士権者決定詩吟大会

日時　令和3年9月23日（木・祝）
場所　ニューオオサカホテル

〈二部 優勝〉

クローバー支部◇福永直人

この度は淀川・東淀川大会二部での優勝を戴き有難うございました。

長い道のりでした。石の上にも三年、いや、十何年やり続けてきて良かったと思える瞬間でした。わが事のように喜んで戴いた先生方、仲間達に感謝しております。

念願の外部大会での優勝、これで少しは自信を持っても良いのかな?これからもチャレンジ精神をもって、何事にも挑み続けて行きたいと思っております。

今、続けてきて感じることは、自分の詩吟とは何なのか…?

詩吟は奥深いです。続けていくには、誰にもすばらしいと思える魅力ある詩吟が出来るようになる事が一番ではないでしょうか。

渡辺緑翔先生には、今までは声を張り上げる事ばかりの私の詩吟に対して、詩の意味、発声の基本の大切さを教えていただきました。まだまだ、発展途上の私ですが、これからも、ご指導宜しくお願い致します。

そして緑崇流が永遠に続く事を祈念いたします。

第四十九回 高槻市吟剣詩舞道決勝大会

日時　令和3年11月3日（水・祝）
場所　高槻現代劇場大ホール

独吟の部〈三部 優勝〉

松原支部◇島田喜久子

この度は、三部に於きまして、優勝という栄えある賞を戴く事が出来ました。渡辺緑翔先生の厳しいご指導のお陰と心より感謝申し上げます。

私の詩吟の出合いは、三十数年前、今の地、高槻に家を建て引越しして来てからです。縁があって、松本緑遥先生にご指導を受けたのが始まりです。

その後、山戸緑晨先生にご指導を受け吟の厳しさや奥深さを自覚いたしました。三人目の師匠、渡辺緑翔先生のご指導は五年目になります。

毎年高槻市吟詠大会に出場して参りましたが、昨年はコロナの為に大会が中止になり、その間に三部になってしまいました。三人の先生のご指導で今の私があると思っています。

長く吟詠を続けて来て良かったと思っています。年齢を重ねてきましたが、詩吟の世界は、極める事はないと思って、これからも練習に励んで、いつまでも若い気持を持ち続けたいと思っています。高槻市の吟士権者の名に恥じないように精進させていただきます。

第七回 井内緑叡おさらい会

日時　令和3年12月19日（日）
場所　五領公民館

五領支部◇奥村緑星

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で十分な練習も出来ない日が続きましたが、二年ぶりに厳しい制限の中でおさらい会を開催することが出来ました。飛び込みで中塚緑庵先生と島田緑聲さんも参加して下さいました。

今年は初参加の新人を含み絶句二題を自由に選択し前半と後半に分けて吟じました。中塚緑庵先生、島田緑聲さんにもお願いして吟じて戴きました。井内緑叡先生には講師吟詠として吟じて戴きました。恒例の故白波瀬緑斎先生のリサイタルのCDと一緒に武田節を合吟して終了しました。

終了後、恒例の「忘年会」も新型コロナウイルスの影響で開催できず、サンドイッチ等を用意して懇親会へと展開しました。久しぶりに詩吟の仲間と懇談し和気藹々の中、話が盛り上がりました。

早く新型コロナウイルスが収束する事を期待し、来年の躍進を祈りつつ散会となりました。

第二十八回 渡辺緑翔門下温習会

日　時　令和3年11月6日（土）
場　所　プラザオーサカ1階「雅の間」

京口支部◇重村秀則

この度は、渡辺緑翔先生門下の温習会に参加させて戴きまして有難うございました。コロナ禍で大変な時期にもかかわらず、開催へ向けてご尽力いただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

私は、今年の三月より京口支部で松本緑遥先生のご指導の下、詩吟を始めさせて頂きましたが、正直なところこれまで詩吟と言えば天津木村さんのエロ詩吟しか聞いたことがありませんでした。ところが、京口支部の細越さんにお誘い戴きまして、松本緑遥先生とのご縁を頂戴して初めて本当の詩吟に出合いました。

始めは（今もですが…）なかなか声が出ず、節も分からないので恥ずかしさもあって大きな声も出せず、吟じる事が出来ませんでした。それでも松本先生に根気良く暖かくご指導して頂きまして、少しばかり詩吟っぽいことが出来るようになりました。

そんな少し慣れてきた折に突然、「十一月にちょっと連れて行きたいところがあるから」と言われ予定を空けたのですが、まさか、それが初めて人前で吟じる事になろうとは思いもしませんでした…。自分自身が人前で吟じるのも初めてでしたが、他の方のたくさんの詩吟を聞く事ができまして、とても勉強になりましたし、すごく刺激を受けました。そして何より感じたのは、ある意味正解はないのかなということです。多少の節回しや音程が違っていても、皆さんそれぞれの思いや歌の意味を噛みしめながら吟じているのを見ると、基本はもちろん大切ですが、気持ちの部分の処理が大切なのだと心から感激しました。自分自身これからも、基本を大切にしながら気持を込めて自分らしさを出せたらと思っています。

最後に、宗家　箕輪緑崇先生のお話になられた「エモい」詩吟を目指して、これからも日々精進していこうと思いますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

秋のハイキング 紅葉巡り トロッコ列車と保津川下り

日　時　令和3年11月23日（火・祝）
行　先　京都嵐山

十三北野支部◇團　緑佳

前日の雨が嘘の様な秋晴れの中、嵐山のトロッコ保津峡を経て亀岡へ。

途中の紅葉は期待どおりの素晴らしさで、目に焼きつき感動でした。

亀岡からの保津川下りは、前日の雨で水嵩が増していて、ドキドキの出発！舟の底がぶつかってドスンと音を立てるたびに、ギャーと声だけは若い？かわいい奇声!!両端の人はシートを素早くさっと持ち上げないと水しぶきでビシャビシャになったり、トロッコに乗ってる人や岩の上で写真を撮っている人に舟から手を振って親睦を…。

トロッコ列車で二十五分の至福の旅、急流や変化に富んだ岩や紅葉を見ながら、およそ16キロが約二時間のスリル満点の保津川下りを満喫して、無事に名勝嵐山に到着!!興奮覚めやらない気持で居ると現地解散と!!

竹林に行く人、帰途に着く人、四条河原町に出て赤ちょうちんを楽しみに向かう人、最後は色々でしたが、「終り良ければすべて良し」と本当に何事もなく、楽しく笑いが絶えない一日に感謝しかございません。

幹事さんありがとうございました。

ニュース東西南北

大会記録

〈大阪府吟剣詩舞道総連盟〉
第45回全国吟詠コンクール大阪府北連合大会
一般二部
〈上位入賞〉森井澄子・福永直人・中塚宏輝
木下真司（府総連決勝へ）
一般三部
〈決勝進出〉優勝 西岡悦子
4位 宮内幸夫　5位 井内鈴子
14位 木原恵子
〈上位入賞〉中野裕子・辻悦子・中山孝彦
石川洋子・松野節子・若杉アサカ
松永幸代・金田和彦・福本佶
田中紀子・松本八重子・吉村昌樹
細越保・垂水時子・片山美都子
青野治子・前之野園晃・加賀山豊
米田宇一・島田喜久子（大阪大会へ）
＊（まん延防止法措置により決勝進出者のみ大阪大会へ）

第45回全国吟詠コンクール大阪府大会
一般一部
2位 加藤恭子（近畿大会へ）
第45回全国吟詠コンクール近畿決勝大会
一般一部〈上位入賞〉5位 加藤恭子（全国大会へ）
一般三部〈入賞〉宮内幸夫・西岡悦子・木原恵子
プラチナ吟詠大会
〈決勝〉4位 中山孝彦
入賞 奥村雅生・垂水時子
第49回全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会
二回目入選 西岡佐智世

〈大阪府詩吟連盟〉
第63回吟士権者決定詩吟大会
決勝大会
一部〈決勝進出〉5位 加藤恭子
〈上位入賞〉津村真紀・福永直人
石川洋子・島田久美
青野治子（以上愛連へ）
二部〈決勝進出〉3位 西岡緑春
8位 松野緑煽
〈上位入賞〉中山緑山・木原緑侊
井内緑叡・松本緑遥
（以上愛連へ）

〈愛国詩吟総連盟〉
第76回第一部吟士権者決定詩吟大会
〈入賞〉青野治子・津村真紀・石川洋子・加藤恭子
〈淀川・東淀川詩吟連盟〉
第46回吟士権者決定詩吟大会
一部〈入賞〉田脇正枝
二部〈決勝〉優勝 福永直人
三部〈決勝〉準々優勝 神崎安雅
4位 松永幸代
〈上位入賞〉安田厚子
四部〈上位入賞〉垂水時子

〈高槻市吟剣詩舞道連盟〉
第49回高槻市吟剣詩舞道決勝大会
独吟の部　二部
〈決勝〉5位 大海告子
独吟の部　三部
〈決勝〉優勝 島田喜久子
5位 片山美都子
連吟の部　2位 木下真次・細越保
第13回藤井竹外奉賛全国吟詠大会
〈決勝進出〉5位 津村真紀
6位 島田久美
9位 島田喜久子

第34回 関西クラウン吟詠家ジョイントリサイタル

日時　令和3年8月22日（日）
場所　尼崎市総合文化センター
あましんアルカイックホール

〈当会の出演者〉（出吟順）
渡辺緑翔　宮内緑郷　木原緑侊　宮原緑晃　加藤緑絆
西岡緑春　西岡緑優

コンクールで決勝に残られた上位入賞の方々の吟や、各府県選抜者の吟詠で出演された宗家箕輪緑崇先生の吟を客席で聴かせていただきました。

午後からの構成吟では、愛連第二部（指導者の部）の吟士権者の方々による舞台『歳時記詩聚吟（さいじきしゅうぎん）』が上演されました。一年中のその折々の自然、人事百般の事を記した「歳時記」を「漢詩」に当てはめ、中国の四季の代表的な詩を中心に、春・夏・秋・冬の四つの部に分けてそれぞれ吟じられました。吟士権者の方々の素晴らしいナレーションと吟詠を聴き、漢詩の世界に引き込まれました。

（編集委員　加藤緑絆）

第十二回 愛連吟詠フェスティバル

日時　令和4年3月6日（日）
場所　尼崎市総合文化センター
あましんアルカイックホール

昨年の愛連フェスティバルで、私がガチガチの吟をしてから一年が経ちました。今年は残念ながら出演は叶いませんでしたが、昨年

【編集後記】
何かと不便なコロナ禍に慣れてきた今日この頃ですが、皆様お元気でお過ごしでしょうか？今思えば、四十五周年記念祝賀会の時はここまでの事態になると想像していなかったです。お稽古が出来ないことや、大会が中止になったり、緑崇流の皆様にお会い出来ないのは寂しいなぁとつくづく感じます。この状況が一日も早く解消され、今年は少しでもお稽古や大会、編集委員としての活動が出来るように願っています。（田脇枝秀）
今年度をもちまして、編集委員を卒業することとなりました。編集委員として四年間の中で、会創立四十五周年記念祝賀会が盛大に行われたことが大変思い出深く心に残っており、編集局の先生方との編集作業を経て、とてもいい会報が出来上がったときの喜びは一入でした。たいへんお世話になりありがとうございました。これからも、違う形で緑崇流に携わらせていただくことになると思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。（加藤緑絆）